

2024年8月28日

2023年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク

代表者・役職名 氏名 理事長 牧 紀男

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないもの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

ゲームで学ぶ誰もが安心して避難できる避難所運営の実践 活動地域:京都北部(中丹地域中心)

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。 会員数など。180文字程度まで)

2010年6月に設立し、ネットワークを構築することにより、地域の様々な課題に向き合う活動をしています。2014年の豪雨被害をきっかけに、防災・減災にも力を入れ、BCPの策定支援や外国人への防災研修などを実施してきました。また、現在はひとり親家庭や外国籍家庭等への食料支援を通して、様々な支援に繋げる活動も行っています。なお、現在の会員数は18名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

近年、各地で河川の氾濫や土砂崩れが発生し、避難所に避難しなければならない状況が増加しています。避難所には高齢者や子ども、障害のある人や外国人など様々な人が避難してきますが、現状ではこのような要配慮者に配慮した設営・運営が出来ているとはいえない状況にあり、このような状況を改善しない限り、避難所に避難することをためらい、命を落すことにもなりかねません。そこで、避難所運営ゲームを通じて、避難所の設営・運営には様々な課題があることを知り、実際の避難所運営に活かしてもらうことを目的として実施しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

誰もが安心して避難できる避難所運営を目的に①防災の専門家である福知山公立大学准教授による「令和6年度能登半島沖地震から学ぶこれからの避難所運営」の講演と地域の防災を担っている人とのパネルディスカッションを実施し、避難所運営について意見交換を行いました。②防災士と共に、事前学習会を実施し、地域の防災や避難所運営等の課題を共有後、2か所の地域で年齢や性等が異なる多様な人たちと避難所運営ゲームを実施し、安心・安全な避難所を運営するための課題の共有やノウハウ等を学んでいただきました。③この事業に関わっていただいた専門家とともに、報告書を作成し、他地域にも参考にしていただけるよう配布しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

＜結果＞

①講演会…1回 現地参加人数18名、他ユーチューブ配信による参加者21名 ②事前勉強会…2回 ③避難所運営ゲーム…2回 三和川合地域(女性3名 男性7名) 中六人部地域(女性4名 男性11名)④専門家を交えた振り返りと報告書の作成

＜成果＞

講演会及びパネルディスカッションでは、能登半島沖地震における課題等を参考に、地域における今後の避難所運営に向けた課題と解決策を話し合いました。また、避難所運営ゲームを通して、実際の運営の難しさを感じていただくことが出来ました。

＜社会的な変化＞

今回行政職員も事業に参加していただいたことで、避難所運営の課題を共有するなど、地域と行政が連携するきっかけになりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

避難所運営ゲームを行うにあたり、グループのメンバー構成により、全く違う結果になることが分かりました。実際の場面で役立てるためには、多様なメンバーで何度も繰り返し行う必要があり、そのためには地域住民の防災に対する意識をどのように高めればよいかが一番の課題であると感じました。今回の事業でまとめた報告書をもとに、各地域に働きかけ、要配慮者である子どもから高齢者、障害のある人、外国人等を交えてゲームを実施するなどにより、地域住民の防災意識を高める活動を継続したいと考えています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

令和6年能登半島地震から学ぶ これからの避難所運営

参加
無料



日本ではここ数年大地震による災害が頻繁に起こっており、大きな被害をもたらしています。今年の1月1日には能登半島地震が発生。これまでの災害から得た知恵や工夫が避難所運営等にも活かされました。しかし、過疎地域で起きる災害にはまだまだ課題が多いのが現状で、実際熊本地震に続き多くの災害関連死を生んでいます。ICTの活用や人材と物資の準備などは特に災害が発生する前に用意しておく必要があります。今回は福知山公立大学の大門准教授をお招きして、能登半島地震から学び地域に活かすための学びを得たいと思っています。

日時：2024年5月30日（木曜日）午後6時から午後9時

場所：福知山市総合福祉会館 3階 33号室

京都府福知山市字内記（内記二丁目）10-18

内容：①福知山公立大学大門大朗准教授による講演

（現場から見たこれからの避難所運営）

②パネルディスカッション

（京都北部での避難所運営の課題）



パネラー：日本防災士会京都支部事務局長 飯澤 吉郎氏

中六人部地域づくり協議会会长 北山 哲史氏

株式会社かわい代表 土佐 祐司氏

地域など問わずどなたでも参加できます

定員：50名

参加申し込みは下記のアドレス又はQRコードを読み取って申し込みください

<https://forms.gle/4DzXGBwPyhvRJZs46>

YouTube配信：<https://tantantv.g.nkyoto.com/>



参加申し込み



配信

主催：特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク

メール：tantan@kyoto-tantan.net 電話：0773-45-3507

後援：福知山市

この事業は「真如苑」の助成を受けて実施します

